

旭川医科大学 卒後臨床研修センター通信



平成24年4月号

発行: 卒後臨床研修センター

センターの活動予定

- ◆5月16日(水)17:30～ 研修医セミナー
- ◆5月下旬 センター通信 5月号発行



研修医 体験談 第4回山本 哲史 先生

初めまして！研修医2年目の山本哲史です。僕は初期研修2年目を大学で行なうプログラムで、今年は11カ月の自由選択となっています。この自由選択は入局した小児科で研修する予定となっています。自己紹介はこれまでにして、今回研修医の体験談を書くことになったのですが、なにを書けばいいやら笑。僕の医大での研修の話でもしようかと思えます。



今振り返ると、初期研修1年目で大切だったのは「いかに自分が職場になじめるか。」「いかにちゃんとした技術を身につけるか」というところだと思います。その点、大学は環境に溶け込みやすく、常に上級医と相談できる環境が整っておりフィードバックがもらえる点で恵まれていると思います。また大学での研修のモチベーションの一つとしてポリクリ生の存在もあると思います。ポリクリ生と患者さんの状況や治療方針の確認をすることで自分の知識の再確認になるし、ポリクリ生からの質問に対して「ちゃんと答えなければいけない！」というプレッシャーも研修生活のモチベーションになっていると思います。時にポリクリ生からの質問に挫けそうにはなりますが・・・笑。でも、それは勉強や再確認する機会をもらったと考えればいいことだと思います。3年目以降に向けて、これからもいい研修生活を過ごして行きたいと思っています。

ちょっと変わって少しお金の話。。。初期研修医はお金を使う時間がないからお金は自然と貯まるとよく言われますが、それは一概には言えないと思います。確かに働いてからは出費の機会は少なくなりましたが、自分に必要な専門書を買っていくと案外お金がかかってします。「この専門書が欲しいけど貯金のこと考えたら3年目になってからでいいかな～。今勉強できる分だけ買おう。」って躊躇することもしばしばありました。そんな時に大学で研修中の同期から「教科書は勉強できる分だけ買うんじゃなくて、今読みたい部分があればその本を買っといたらいいよ。辞書を買うつもりでさ。」と言われました。そんな時、卒後3年目から地域医療に従事する医師向けの奨学金(北海道医師養成確保修学資金)が存在することを知りました。僕は入局を決める時点で、卒後2年目は大学で専門的な内容を広く経験し3年目からの後期研修は地域病院でcommon diseaseを経験しさらなるスキルアップと考えていたので、この奨学金を申請し専門書代などに活用していこうと思いました。地域病院での研修を考えている方は申請も考えてみたらいいでしょうか？

終わりに、卒後すぐの頃は医師免許の重圧につぶされそうな日々でしたが開き直りが大事だと思います。大学という環境で研修できているのに、プレッシャーにつぶされたらせっかくの時間がもったいないです。「研修医なんてできないことだらけなんだから、できることを一個ずつやっていけばいい！」これが今僕を支えている言葉です。みなさんもいい意味で開き直り、一緒にいい研修をしましょう！！

【報告】研修医オリエンテーションを開催しました。

初期研修医のオリエンテーションを実施しました。初日には辞令が交付され、病院長から直接一人一人に手渡されました。その後一週間にわたり、翌週から始まる臨床現場での研修に向けて、院内内で必要とされる知識や技術について、各部署から直接指導を受けました。



また、4月21日(土)、22日(日)にはICLS(ACLS基礎)コースが開催され、オリエンテーションの全課程が終了しました。このICLSコースには、近隣の臨床研修病院からも研修医が参加し、2日間で総勢33名の研修医が本コースを受講しました。

「母校を知ろう!!」

卒業後の研修先を決める際の参考にしていただくために、まず母校について紹介します。その方法としてまずこの紙面で順次1講座ずつ紹介します。さらに大学や院内の様々な部署の教員の方から具体的な仕事の内容、働きがいはどこにあるのか、将来はどんな道が開けているのかなどをご紹介します。

母校の紹介 第4回 内科学講座病態代謝内科学分野(第二内科)

内科学講座病態代謝内科学分野(第二内科)は、糖尿病・代謝内科学、膠原病内科学、内分泌内科学、消化器病内科学領域の診療および教育・研究を行っています。

糖尿病グループは、外来糖尿病教室、教育入院、インスリン強化療法導入、持続血糖測定(CGM)による血糖コントロール評価と治療の至適化など、今日の糖尿病診療の基本の実践はもとより、世界に先駆けたオリジナルな研究成果をもとに腎症・細小血管症などの糖尿病合併症の病態解明と治療法開発、インクレチン関連薬による先進治療の確立に取り組んでいます。膠原病・内分泌グループは、関節リウマチに対する生物学的製剤療法、白血球除去療法、免疫抑制療法など高度専門治療を行う数少ない施設の一つとして道北地方の膠原病センター的役割を担っています。また、専門医不足が問題とされる甲状腺・内分泌疾患の診療においても市内関連施設との連携のもと、地域のニーズに応えています。消化器グループは、肝胆膵領域の専門診療および一般消化器診療を行っています。ウイルス性肝疾患の治療、自己免疫性肝疾患の治療、経静脈的造影超音波を用いた肝腫瘍の診断と治療、非アルコール性脂肪性肝炎の診断と治療、膵・胆道癌の集学的治療の他、高度なIVR技術を駆使した血管造影、経皮的ラジオ波治療、EMR/ESDなどの先進医療に積極的に取り組んでいます。

幅広いニーズに対応できる全人的医療を内科学を通して学びたい人、時にはハメを外す人間味豊かな医師を理想とする人、そんなあなたが最も似合う場所、それが第二内科です。



【お問い合わせ先】

旭川医科大学 卒後臨床研修センター
〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1 TEL 0166-68-2198 FAX 0166-68-2199
E-mail: sotsugo@jimu.asahikawa-med.ac.jp
ホームページもご覧ください。
<http://www.jimu.asahikawa-med.ac.jp/shomu/sotsugo/>